

令和 4 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | |
|---------|-------------|
| 事業所番号 | 1670103579 |
| 法人名 | 有限会社朝日ケア |
| 事業所名 | あさひホーム吉作 |
| 所在地 | 富山市吉作4261-5 |
| 自己評価作成日 | 令和3年2月16日 |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|--|------------|-----------|
| 評価機関名 | 一般社団法人 富山県介護福祉士会 | | |
| 所在地 | 939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階 | | |
| 訪問調査日 | 令和5年3月8日 | 評価結果市町村受理日 | 令和5年3月30日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

運営理念の「私たちの仕事はお年寄りに満足してもらうこと、満足をはかる物指しの一つに心からの笑顔がある。この笑顔とはお年寄りだけではなく、家族も介護スタッフも地域住民も含んだ皆の笑顔である。」を全職員で共有と実践できるように日々、笑顔を念頭にケアに努めている。認知症によりわからないことやできないことが増え、表現が難しくなっているにも、馴染みの関係を築き一人ひとりの想いや楽しみ、安心につなげられるようにコミュニケーションを行い、笑顔を引き出せるように心掛けている。コロナ禍で現在は実施できていないが、コロナ以前のように施設に住むけれど、家族や地域なじみの関係性などを継続し、地域で暮らすことの大切さを尊重できる日が戻ることを願いながら運営しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

運営理念を全職員で共有し、利用者が笑顔で穏やかに過ごせる環境を提供しながら、人生の最後までを支援している。法人は、質の高い介護技術研修等を通年で実施し、富山県のモデル事業「つなぐ・つながるプロジェクト」に参加。呉羽地区の事業所と連携しながら地域住民参加の交流や介護技術勉強会を行うなど、地域貢献活動にも積極的に関わっている。ある職員は「してあげる介護ではなく、笑顔がある同じ目線の関係でありたい」と話し、管理者は「本人が望まれる自由を奪うことなく、ここでの生活を継続してもらいたい」という。そこには職員の底なしのやさしさと信念が感じられる。「毎日誠実に丁寧に接していただいている」と家族からの信頼度も高い。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

| 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印 | | 項 目 | | 取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印 | |
|-----|---|-----------------------------|---|-----|---|-----------------------------|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を揃えている。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど揃えていない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | フロアに理念を掲げ、ミーティング等で理念の共有や支援基本の理解と実践に取り組んでいる。 | 開設時からの理念を基本に、家庭的で温かく、話しかけにより笑顔を引き出せるケアを共有し、毎月のミーティング時や機会あるごとに振り返りを行い実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 現在新型コロナ感染禍で運営推進会議は書面報告となっている。しかし、介護相談員は、状況を踏まえてオンライン開催や時間短縮で行っている。少しでも外部との繋がりがりや視点を持てるように情報共有や意見交換をしている。また、富山県のモデル事業で、つなぐ・つながるプロジェクトに参加して地域住民参加との交流や介護技術勉強会を行った。 | 町内会に加入しており、町内の情報は随時入る状況にある。コロナ禍で地域行事への参加は控えているが、介護相談員の訪問は柔軟に対応している。利用者や近くの梨畑等に散歩に出かけた際は、近隣の方と挨拶を交わすなどの交流の機会がある。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 上記のつなぐ・つながるプロジェクトで、地域の介護に関する入門的研修へ講師派遣や施設実習、介護補助員としての就労面談も行っている。呉羽地域に介護勉強会の案内もしており、少しずつ地域貢献を行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は書面報告となっており、意見交換の場はないが、その代わりに日々の状況を電子媒体の活用で家族さんの意見や要望を聞き、面会も行っている。行政や自治会へは、書面報告の際に現状報告や意見交換を行っている。その上で日々の申し送りやミーティングで話し合い支援につなげている。 | コロナ禍で書面報告となっている。2か月に1回開催し、自治会長、地域包括支援センター職員、民生委員、家族が構成員となり行われている。利用者の生活状況、事故報告・身体拘束実施報告などを伝え、共有してサービスの改善に繋げている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村や地域包括支援センター・居宅等ケアマネジャーとの意見や情報交換は相談や見学等も含めて、新型コロナ禍の状況を見て感染対策をしながら行っている。また介護相談員の受け入れもオンライン、時間短縮等感染状況を踏まえて行い、開かれた施設になるようにしている。 | 市町村や地域包括支援センター、居宅ケアマネジャーとの情報交換や地域の現状把握を常日頃からこまめに行っている。また、介護相談員の受け入れは状況に応じてオンラインや短時間対応で実施し、地域といつでも連携できる関係を築くよう努めている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 日中は施錠せず開放をしているが、夜間や緊急時に対応できるように施錠対応もしている。また、職員の見守りと居室空間では必要に応じてセンサーマットを使用している。一人ひとりの生活スタイルにより必要に応じて、ご家族の協力(必要に応じて夜間の泊りをお願いする)によって、拘束しないケアを実践している。毎月のミーティングで身体拘束について確認及び共有している。 | 身体拘束適正化委員会による会議を2か月に1回、運営推進会議に合わせて行い、状況の報告を行っている。毎月のミーティング時に職員が具体的なケアを振り返り、検証し身体拘束しない実践に繋げている。指針のもと、委員会、研修会が適切に実施されている。 | 実施されている身体拘束適正化のための委員会、研修会等について、誰もがよりわかりやすい記録の整備、整理の方法等についての工夫に期待したい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 発見時にスマートフォン・タブレット等で記録に残し職員で共有し、また、トイレ介助、入浴時や更衣時に新たなものがないかチェックし、ミーティング等で話し合い、対策を立てている。また、チームで全社共有を行い各事業の日々の取り組みや利用者等の様子、連絡・通達文も含めて行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 以前成年後見制度を利用されていた方もおられ、2～3人の司法書士さんとは、情報交換や助言・アドバイスも含めて行っている。また、親会社が顧問弁護士を契約しており、権利関係や法律等で相談も行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約前の相談・見学の段階から時間をかけて話を伺っている。また、契約や重要事項説明書、料金変更等や看取り、北代と吉作の違いや将来に向けて事例も含めて行っている。また、退去に伴う解約時と同様に清算料金を重点に説明をして、その都度理解して頂けるまで説明して、同意を頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 新型コロナで直接の意見交換は運営推進会議も含めて現在行っていないが、その代わりに、SNSの活用で現状報告や受診・往診結果等、衣服等依頼も含めて行い、その上でメッセージアプリ等で意見交換や相談を受けている。課題に関してはミーティングなどで協議し、サービスに反映させている。 | 利用者の意見や要望はその都度記録に残し職員間で共有し対応している。家族とはSNS等で意見交換や相談を受けている。SNSは「体調不良時だけでなく、体調が改善した際にも連絡がほしい」「些細なことでも報告がほしい」という家族の要望にきめ細かく対応が可能で、運営に反映されている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月一回のミーティングや日々の仕事の中で、管理者と職員がいつでも話し合える環境であり、細かいことでも情報共有できるよう努めている。昨年からはチームスのアプリを活用して、現状の課題等を報告したり意見や提案する場を作り、柔軟な雇用形態にしている。また、経営会議、運営会議の報告も行い意見や提案も行っている。 | ミーティングや日々の業務、各委員会の中で職員は思いや意見を自由に発言している。昨年からはアプリの活用で、より意見や提案を出しやすい環境となった。意見や要望は話し合いで実現することが多く、職員の励みとなり、働く環境改善へ繋げている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 年に二度の面談を行うことで職員の意見・要望を聞く機会を作り職員環境の整備に努めている。また、必要に応じて各事業所ラインやチームスの活用を行い面談等へ繋げて環境整備に努め、処遇改善を全職員対象に行っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | チームスの活用やパソコン、スマートフォン、タブレットを使用して日々の目標・結果を打ち込み共有することで職員の力量を把握し、日々変化する介護状態の把握に努めている。また、定期的にトランス(移乗介助)、口腔ケア等や社内勉強会も行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 富山県グループホーム協議会や地域包括支援センターや介護福祉士会が開催する研修会等にオンラインで参加して意見交換や課題解決等をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 相談からご利用までの間に、面談やオンライン面談を通して情報の収集をしている。入院中や他の施設を利用中であればその機関先からも情報を提供して頂いている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学・利用にあたっての説明などは新型コロナ感染対策を行いながら必要に応じて受け付けている。また、ご家族の不安解消のため、SNSの活用や電話連絡でコロナ禍であっても時間をかけて相談に対応している。また、ご家族とはSNS等を活用して状態変化や意見交換など迅速な対応をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族の要望をお聞きし必要な情報をお伝えするよう努めている。すぐにグループホーム入居ではなくデイサービス(北代)の利用や短期共同生活介護等の利用により徐々にホームに慣れていただくような段階を踏むこともできる。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 出来る限り本人の個性や得意なことを活かしてもらい、状態悪化にならないように共に協力しながら行っている。特に昼食作りの下ごしらえ・盛り付け、洗濯物をたたむ、モップ掛けなどできる範囲で行い、また感染対策をしながらドライブや散歩も新型コロナ禍で実施することは少なくなったが実施している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | SNS等を活用してご利用者の思いを共有できるように、細かな事でも報告、情報交換、受診時の付き添い依頼等している。また、新型コロナ禍であっても感染対策を行いながら、短時間でも面会を実施しており家族との時間や触れ合える場面もできるように努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 新型コロナ禍で面会中止と再開を繰り返しているが、現在は、感染対策を実施しながら短時間での面会は行っている。受診以外の私的な外出等される方は現在いないが、面会・外出に関してはご家族等関係者の理解・協力を得ながら、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。 | コロナ禍ではあったが、感染症対策を実施しながら状況に合わせて短時間面会を行ったり、テレビ電話、オンライン面会、SNS通話を使い、家族のきずなが途切れないよう対応している。家族と受診時に買い物に行くなど、慣れ親しんだ人や場所の継続が途切れないよう支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係に配慮し、その時々状況に応じて座席の位置など交流がはかれるよう工夫している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスが終了しても要望等があれば相談やお困りごと解消等支援に努めている。また、他施設へ移られた入居者などは、機会ができれば様子を聞いたりしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々一人ひとりと会話しながら共に日常を過ごしながら、認知症により適切に表現することが難しくても日々のコミュニケーションにより得た、利用者の性格や個性を活かすことができるように情報共有に努め、電子媒体(ラインやチームスやほのぼの等)活用を積極的に行っている。 | 入居時に、家族、本人から今までの生活や、家族の思いを聞き取っている。利用者の思いは日々のケアの中での行動や発言から把握に努め、何気ないつぶやきや、職員の気づきを電子媒体を活用して記録に残し、本人の思いがくみ取れ、要望が実現できるようプランに繋げている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族からお聞きしたり、本人との関りや会話により生活歴や馴染みの暮らし方などを把握できるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりのペースを大切にしながら日常生活の中でそれぞれのできる事・得意な事を行って頂き、心身の状態に合わせてその時々合った過ごし方ができるよう、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日頃より本人やご家族の意見を聞き、日々の暮らしの中でできる事や楽しみの場があるようにまた、心身状態や生活の中での課題について電子記録やSNS等の活用、共有並びにミーティング等で話し合っている。それらをもとに現状に即した介護計画の作成に努めている。 | 本人、家族の思い、日々のかかわりをタブレットに記録。毎月のミーティングにて主治医の情報や職員のいろいろな意見をチームとして話し合い集約。3か月ごとにモニタリングを行い、ケアマネジャーがケアプランに反映している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の生活の様子や体調の変化など電子記録で行い、個別、全体を含めて細部のデータまで記録にしている。職員間の情報共有に努め、話し合いを持ちながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 新型コロナ禍で行事、イベントはないが、感染対策を行いながらドライブや散歩等を行い、季節感が少しでも感じられるように柔軟な支援に取り組んでいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 新型コロナ禍で実施していない。理髪の出張サービスや近くのスーパーに食材配達等は変わらず継続している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 長く入居されてADLにに応じ、往診対応となっている方も多いが、基本的には、入居以前からのかかりつけ医への受診をご家族へ依頼している。 | かかりつけ医は、本人や家族が希望するところとし、受診は家族同行で実施されている。受診時には、日頃の様子や健康状態を、あらかじめ主治医に文書、SNS、FAX等を使い情報提供し、受診結果は伝達ノートや介護記録を使い職員間で共有している。緊急時は職員同行で受診している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日常の健康管理や医療支援について、全社共有の電子記録やSNS等で情報共有し、介護職と看護職との連携に努めて適切な支援を送れるようにしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院後は今までの経過や情報を医療機関に伝えている。入院中もご家族と連携を取りながら、可能であれば、入院中の状態を把握するために訪問させて頂いて、退院後も適切なケアが行えるようにしている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合や終末期のあり方についてご利用者、ご家族とともにヒアリングを行いその上で、主治医と話し合っている。またマニュアルを基に行っており、職員の「看取り」に関する理解を深めるためにターミナル期にあるご利用者の情報を申し送り時やミーティングで話している。新型コロナ禍であっても看取りを行い、ご家族に悔いがないように取り組んでいる。 | 終末期、重度化における指針をもとに、事業所としての方針を丁寧に伝え、希望により看取りを実施している。主治医と何度も話し合い、看取り介護支援マニュアルに沿って行っている。職員は終末期についての勉強会等で、心構えや支援のあり方を学び看取りに備えている。実際の看取り時は家族の協力を得ながら、安楽な旅立ちを支援している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 非常時や緊急時の対応方法を呉羽消防署と合同にて訓練を行ってその指導を受けて、基本的な救急法を身に付けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 現在BCP等施設地域に即した災害時のマニュアルを見直し作成中である。備蓄品や非常電源装置など想定される災害に対応できるよう予定している。新型コロナ禍でもあり現在は呉羽消防署の協力を得て、年に2回日中・夜間想定避難訓練を行っている。 | 年2回、夜間想定火災訓練を実施。訓練にはベトナムからの技能実習生3名も参加し、一時避難として煙から遠い場所への避難を実践している。近隣住民を巻き込んだ訓練やBCP(業務継続計画)等、事業所の地域に即した災害時マニュアルを見直し作成中である。 | 火災時対策の他、地域の現状に合わせ地滑りや地震等の災害時の対応について、避難の方法や日ごろの取り組み、水・食料の備蓄など、いざという時の体制づくりの工夫・検討を期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | デリケートな場面では声のトーンを下げたり、利用者様それぞれの聞こえ方に合わせた音量で声かけを実施・指導している。東フロア、西フロアでの区別もできるので、プライバシー等に配慮した対応もできる。また、接遇委員会や安全委員会をとして尊厳や寄り添うとは不適切ケアとは何かを情報共有して実践している。 | 接遇委員会や安全委員会で尊厳や寄り添うケアとは、不適切ケアとは何かを研修し、情報共有して実践に繋げている。利用者の生き方や性格、その場面の心境に合わせたかかわり方で支援し、セミパブリックスペースをうまく利用してプライバシーの確保に努めた対応を実践している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 新型コロナ禍でこれまでの日常とは離れていることも多いが出来る限り日々生活の中で利用者の声や表情・行動をよく見聞きし自己決定できるよう促している。言葉で表すことができない方に対しても、常に声掛けしできるだけ思いや希望を汲み取れるよう働きかけている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 新型コロナ禍で声掛けなどは必要最小限になったが、その時々気分や体調により、無理強いせず、それぞれのペースを大切にしながら希望に沿って生活ができるよう支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 新型コロナ禍で施設内で同じような服装にならないように努めている。また、違った衣類や本人の要望があれば家族依頼している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | コロナ禍で楽しみが減っている中で利用者のできることを出来る限り活かし、食材切り等の下ごしらえ・味見・盛付け等職員と共に行っている。また、その時々で季節感が感じられるようにおやつ等でも工夫している。 | できないが増えている利用者には、職員と一緒に誕生日ケーキのイチゴを飾り付けるなど、できることを行ってもらっている。毎週木曜日は「手作りの日」で、希望により餃子づくり、季節の混ぜご飯等を提供し、利用者の希望や要望に沿える食を楽しむ機会を設けている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの食事量や水分量を電子記録で日及び週間等把握に努めている。それぞれの方の好き嫌いについても把握に努め工夫しながらバランスの良い食事提供ができるよう支援する。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後習慣的に声掛けしできることを活かしながら一人ひとりに合った口腔ケアに努めている。必要に応じ入れ歯洗浄剤や口腔ケアスポンジ等のケア用品を利用し、毎月歯科医からの助言・アドバイス等指導も受けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | どんなに重度化になってもトイレで排泄することの大切さを職員で共有しており、一人ひとりの状態に合わせてトイレでの排泄の支援に努めている。電子記録で排泄状況を把握しながら適切な支援ができるようその都度声掛けして支援を行っている。 | 生活記録から、水分摂取や食事量、排泄状況を把握し、個々の状況に合わせた排泄となるよう支援を行っている。トイレで排泄することの大切さを職員で共有し、本人に寄り添ったケアを実践している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 日々の排泄状況を把握し、食事の工夫やこまめな水分補給・適度な運動や歩行を促すことにより便秘予防・改善に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 新型コロナ禍で毎日の入浴は実施していないが、入浴日の間隔が空かないように配慮している。その日の入浴者予定者は決めていて、本人に聞きながらその時の気分や体調に合わせて入浴できるよう柔軟に対応している。 | 週2回を基本とし入浴しているが、希望や体調、状態にあわせて柔軟に対応している。同性介助や、なじみの職員と会話を楽しみながらの入浴、ゆず湯・しょうぶ湯など入浴を楽しむ工夫がみられる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 電子記録等で日中の活動及び夜間の様子や睡眠状態を把握し、職員間で情報共有しながら、一人ひとりに合った休息の時間がとれるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬は職員管理にて間違いのないようダブルチェックなど工夫・確認しながら行い、必要に応じて薬剤師から助言・アドバイス等受けながら服薬支援を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 得意な事やできる事を活かし昼食作りや洗濯物たたみ等の作業、居室のモップ掛け等気分や体調に合わせて職員と一緒にしている。自分しかできない役割ができていの方もおられ、力を発揮している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 現在新型コロナ禍で行事等は行っていないが、感染状況等を踏まえ、感染対策を行いながらドライブ等季節感や外出することでのメリハリにつながるように適宜に行っている。また、施設内で散歩に出掛けたり、利用者さんによっては自分の家や馴染みの場所など見に行けるようにしている。 | 年間行事計画を作成し、感染対策をとりながら、少人数で呉羽山の桜や梨の花見、海王丸、富山空港へ出かけている。また、散歩や受診時に自宅周辺のなじみの場所へ立ち寄るなど、コロナ禍であっても工夫を重ね、今できる支援を精一杯行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 新型コロナ禍でご家族・職員のみでの対応となり行っていない。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 出来る方はSNS等の活用で、本人自らお礼の電話や写真添付も行い近況をご家族に伝えている。また、メッセージアプリでのビデオ通話など顔を見て話せることもある。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | フロアや玄関に季節の花を飾ったり、利用者の好む音楽やリラックスできる音楽を状況に合わせてかけたりしている。気温や天候を見てベランダや1階駐車場等外へ出てお茶を飲むなど季節を感じられる取り組みをしている。また、東フロア、西フロアで景色が違うので状況に合わせて配慮している。その時々で利用者と共に掃除を行いながら環境整備に取り組んでいる。 | 共用空間は広く圧迫感がない。自然光や風をうまく取り入れ、換気、室温、照明が快適に調整されている。利用者は食事準備の音や匂いがするダイニングや、静かなリビング等活動に合わせて自由な場所で過ごすことができる。共用空間には広報誌や書道作品、季節の装飾品を掲示するなど、楽しみが持てるよう工夫されている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | フロアや廊下にソファや椅子を置いており、一休みしたり、気の合う方同士で寛ぎ話したり、一人で静かに寛いだりされているなど思い思いに日々を過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの家具や道具を持参して頂き、一人ひとりの思いや身体状態に応じて本人・家族と相談しながら配置を換えたりしている。それぞれ生活観のある居心地のよい空間を作っておられる。 | 居室には洗面台があり、利用者は手洗い、清潔ケアができる。室内には衣類や必要品がたっぷり収納できる物入れがある。机や椅子、整理タンス、家族写真など、思い入れのあるなじみの物を持ち込み、自身の部屋が居心地よい空間となるよう支援されている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 利用者それぞれの方の必要に応じ、部屋の表札やトイレの表記を利用者の目線に合わせて分かるよう工夫をしている。 | | |

2 目標達成計画

事業所名 あさひホーム吉作

作成日： 令和5年 3月24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---|--|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 35 | BCP事業継続及び非常電源装置が確立されていない。また、地域住民との災害対策訓練等が実施できていない。 | 事業継続計画の策定と非常用電源の確保並びに備蓄品リスト及び備蓄量の設定を行い全社共有を行う。また、地域住民との災害対策訓練の実施を目指す。 | 現況や事業所立地条件等に即した計画の策定と持ち運び可能な非常用電源装置の導入。運営推進会議等での地域住民への周知と協力を行う。 | 12ヶ月 |
| 2 | 6 | 計画的な研修の実施が出来ていないことや法律等制度やGHとは運営の理解が職員間で共有ができていない。 | 外部研修、内部研修も含めた研修計画の策定と実施を行う。ICT等を活用した研修の導入と実行を行い、介護技術、資質等サービス向上に取り組む。 | 研修計画を基にした研修の実施と安全管理委員会及び接遇委員会結果を踏まえての研修や看取りや身体拘束の研修を行う。また、個人単位でも学べるようにとEラーニング等ICTを活用した研修の導入と実行を行う。 | 24ヶ月 |
| 3 | 27 | 日常生活を支えるとは、重度化や終末期になっても寄り添う介護やその人を支えることの共有や記録の重要性が問われている。 | どんな状態になってもその人に寄り添い、生活の場の環境作りを行い季節感や馴染みの関係等を提供できるように、全職員で情報や記録重要性を理解して取り組む。 | 電子記録での日常(食事・入浴・排泄)の記録と状態変化や行動・言動等の記録時間を決める。毎月の行事を決めて行いまた、買い物や外出、散歩等の環境作りを行う。また記録媒体の定形文も増やし業務負担も削減する。 | 24ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

| 【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】 | |
|---------------------------|---|
| 実施段階 | 取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印) |
| 1 サービス評価の事前準備 | <input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った |
| | <input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した |
| | <input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした |
| | <input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した |
| | <input type="radio"/> ⑤その他() |
| 2 自己評価の実施 | <input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した |
| | <input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った |
| | <input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った |
| | <input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った |
| | <input type="radio"/> ⑤その他() |
| 3 外部評価(訪問調査当日) | <input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった |
| | <input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた |
| | <input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た |
| | <input type="radio"/> ④その他() |
| 4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開 | <input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った |
| | <input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った |
| | <input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った |
| | <input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った |
| | <input type="radio"/> ⑤その他() |
| 5 サービス評価の活用 | <input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した |
| | <input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する) |
| | <input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する) |
| | <input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む) |
| | <input type="radio"/> ⑤その他() |